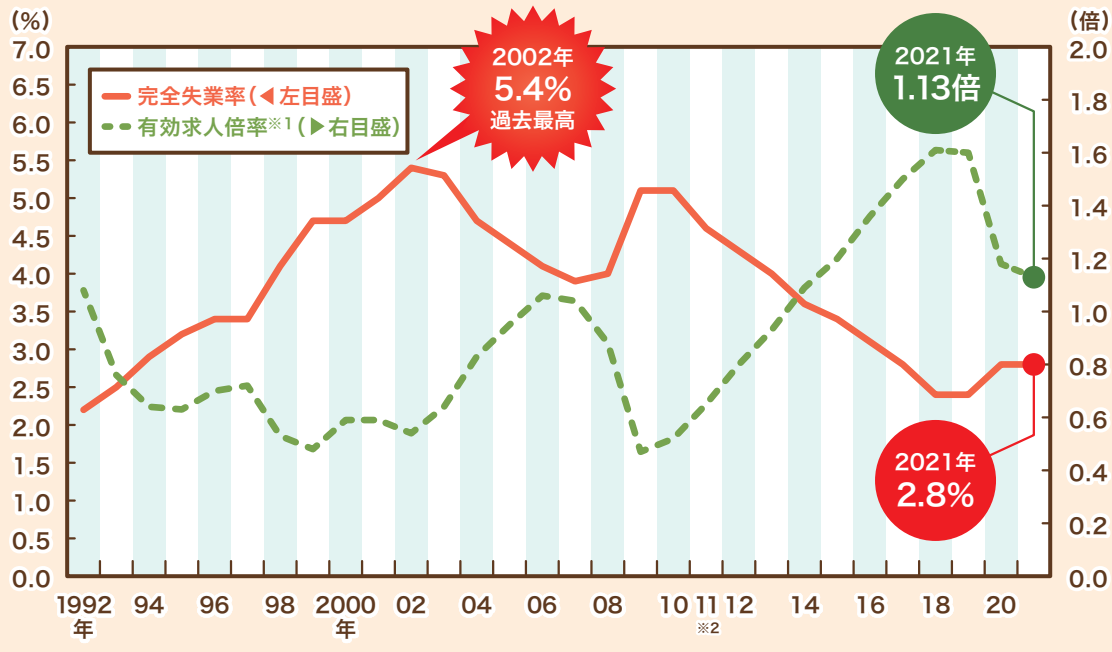


③ 労働のようす

完全失業率は前年と同率

完全失業率と有効求人倍率(1992年～2021年)

完全失業率は、2021年平均で2.8%と、前年と同率となりました。

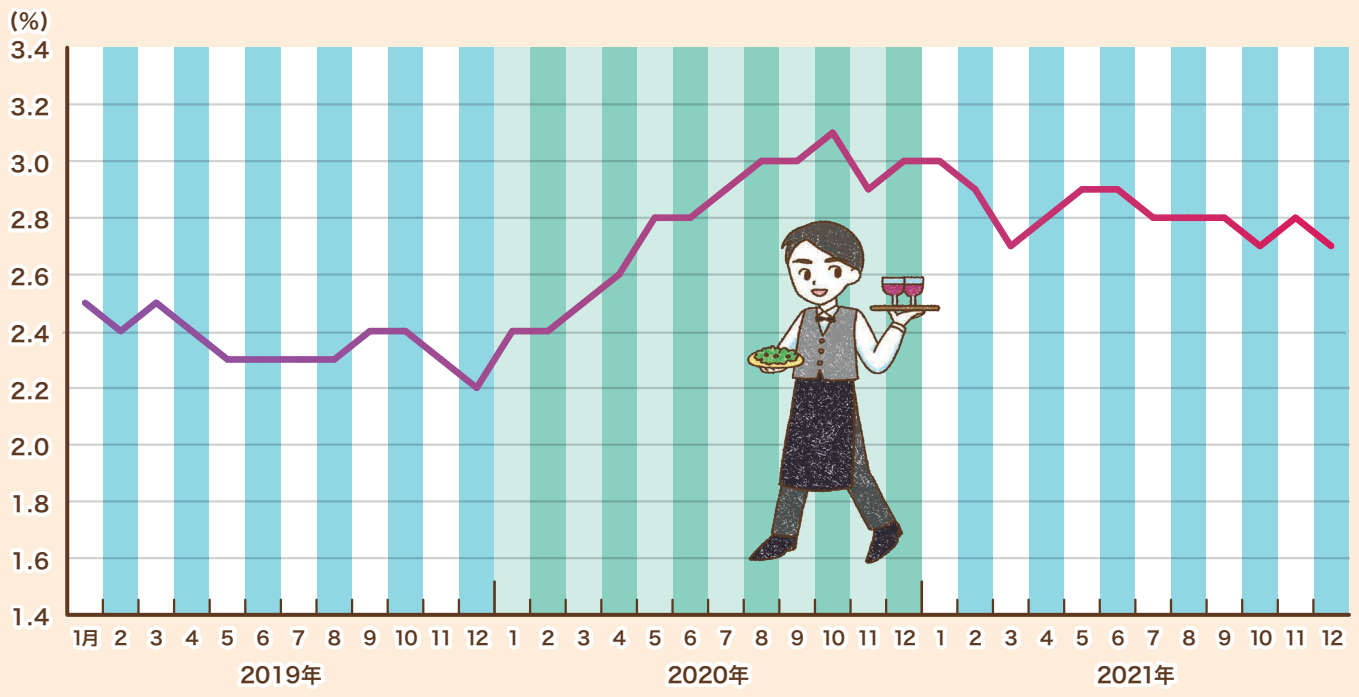


※1 新規学卒者を除き、パートタイムを含む。
 ※2 2011年の完全失業率は補完推計値
 資料：労働力調査(基本集計)結果、職業安定業務統計結果(厚生労働省)

完全失業率(季節調整値)の推移(2019年1月～2021年12月)

完全失業率は、2020年3月まで2%台前半で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響下において、2020年4月以降上昇傾向となり、2020年10月には3.1%となりました。

その後、2021年は、3月にかけて2.7%まで低下し、5、6月に一時2.9%となりましたが、12月時点では2.7%となっています。

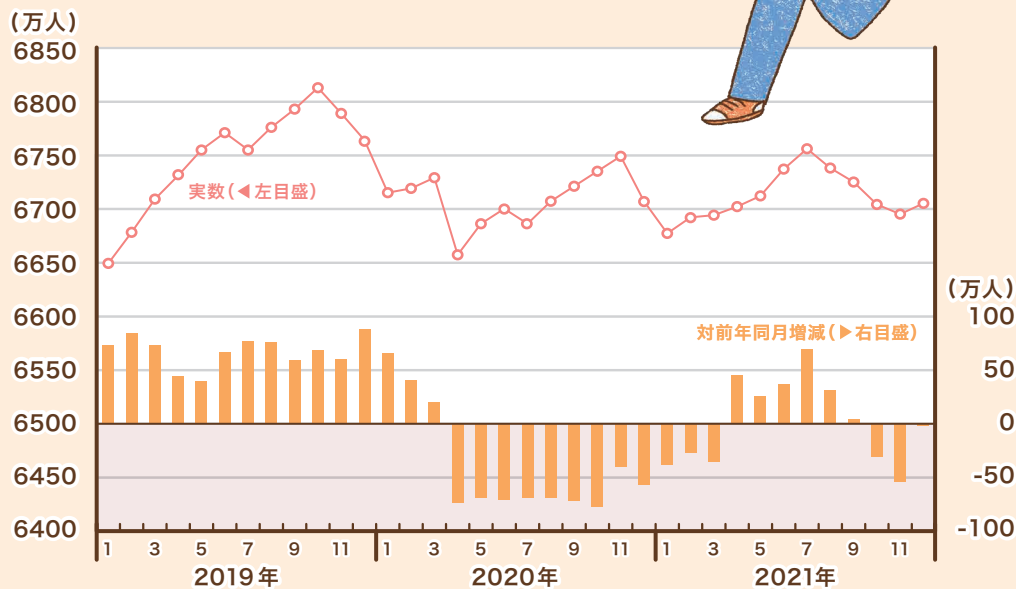


資料：労働力調査(基本集計)結果

就業者数(対前年同月増減)は2021年4月に増加に転じたものの、2021年10月以降は再び減少

就業者数の推移(2019年1月～2021年12月)

就業者数の対前年同月増減をみると、2020年3月までは増加していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響下において、2020年4月から2021年3月まで減少しました。その後、2021年4月に増加に転じたものの、2021年10月以降は再び減少しました。



資料：労働力調査(基本集計)結果

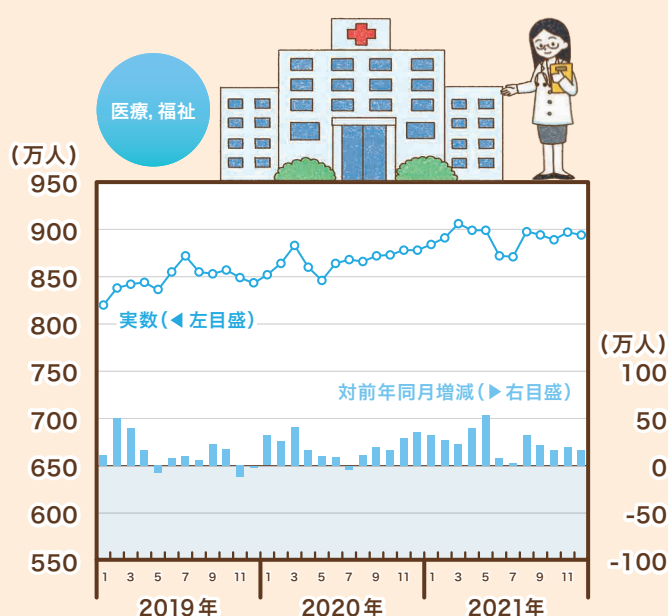
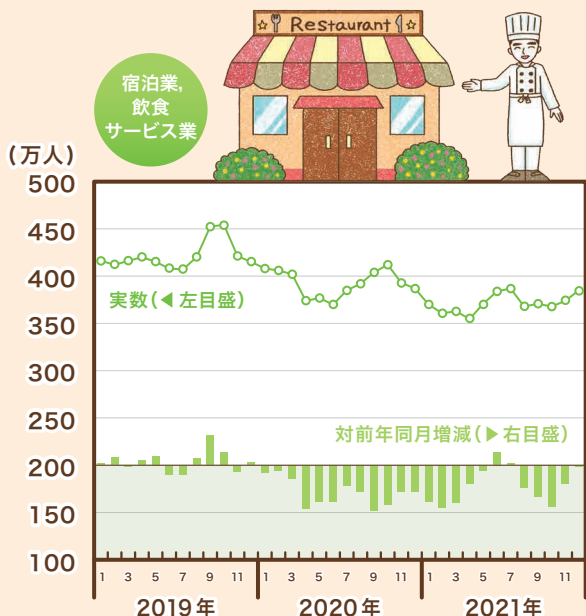
就業者数(対前年同月増減)は「宿泊業、飲食サービス業」で減少、「医療、福祉」で増加

主な産業の就業者数の推移(2019年1月～2021年12月)

主な産業の就業者数の対前年同月増減をみると、「宿泊業、飲食サービス業」は2020年1月から2021年5月まで17か月連続で減少しました。2021年12月は前年同月に比べると2万人の減少となっていますが、2019年

12月に比べ30万人減少と、依然として新型コロナウイルス感染症の感染拡大前より低い水準となっています。

一方、「医療、福祉」は2020年8月から2021年12月まで17か月連続で前年同月に比べ増加しています。



資料：労働力調査(基本集計)結果